

1月6日(火)～2月4日(水) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 盛岡 夕美子



盛岡 夕美子

サンフランシスコ音楽院でピアノと作曲を勉強。帰国後は、宮下智のペンネームで、田原俊彦の「ハッとしてGOOD!」や「NINJIN娘」等多くのヒット曲の作詞作曲を手がけてきた。本名の盛岡夕美子としての活動は、クラシックピアノの演奏、コシミハルや細野晴臣等とのミニライブ、CD制作は、ピアノアルバム『レゾナンス — 余韻』、民族楽器(琴、シタール、etc.)を使ったバンド『カルチャーミックス』を日本で発売、イギリスのレーベル、リサーチエンスより、Bill Nelsonとのコラボのアルバム『Culturemix』を発売。28年間の在米生活の後、現在は日本とアメリカを往復しながら音楽活動を再開している。

今回のセレクトCD

- 

1. **Pentangle / The Pentangle** (Sanctuary / CMRCD131)
1968年にイギリスでデビューしたこのバンドは、名前のごとく5人のメンバーがそれぞれ、フォーク、ジャズ、ブルース、ロック、アーリー・ミュージック等の異なるバックグラウンドを持ち、それが見事にブレンドしている。歯切れの良いリズム感と伸びのある美しいボーカルが絶妙なこのアルバムは、40年以上たった今でもちっとも古さを感じないどころか、むしろ新たな魅力を感じるのには私だけだろうか。
- 

2. **Zaz / Zaz** (Sin UK / 74473)
日本でも人気が出てきたZazの2010年に出したデビューアルバム。英語圏のアングロサクソンの音楽に行き詰まったら、こういったラテン系のジブシージャズ、ジャンゴを聴くとなぜか元気が出てくる。独特のハスキーな声質は、平山みきにちょっと似ていて、小気味良いリズム感とめりはりあるパンチのきいた歌い方が格好良い。
- 

3. **Marlui Miranda / Ihu Todos Os Sons** (Pau Brasil / PB001)
ブラジルのアマゾンの先住民の血を引く彼女は、1995年にリリースされたこのアルバムで、先住民の文化継承に大きく貢献しながら、数々の伝統的なインディオの歌を独特のアレンジで歌っている。その一方ではジルベルト・ジル、ウアクチ等のアーティストとのコラボにも力を入れている。
- 

4. **Uakti / Mapa** (Point Music / PNT965-2)
ウアクチはブラジルのインストルメンタルのグループ。ミニマル・ミュージックの影響を受けたこのアルバムは、1989年の作品で、ひょうたん、水、ガラス、竹、塩化ビニールチューブ等ありとあらゆる物を素材に使った独自の創作楽器を使っている。ミニマリズムの台頭であるフィリップ・グラスと共同制作した5枚の中の1枚でもある。ポール・サイモンやマンハッタン・トランスファー等大勢のミュージシャンともコラボして国際的に活躍している。
- 

5. **Shirley Horn / Here's to Life** (Verve / 0602498840382)
1992年にレコーディングされたこのアルバムは、彼女の独特の間の取り方、音の見送り方が、美しいオーケストレーションと重なり、最も彼女らしい最高傑作である。人生や愛の明暗を知り尽くした大人の女性にしか書けない、そして歌えないこれらの歌は、決して単なるロマンティックなサウンドにとどまらない深さを持っている。一度ライブを聴きたいという夢は、2005年に他界した為に、永遠にかなわぬ夢となってしまったのが残念である。